資料５

北九州市在宅人工呼吸器使用患者・災害時総合支援事業
第２回プロジェクトチーム意見交換会　議事要旨

１　開催日時　　令和７年１１月２０日（木）１８時３０分～２０時００分

２　開催場所　　総合保健福祉センター（アシスト２１）２階　講堂

３　出席した構成員
足立　弘明、入江　里代、川本　京子、泰　真二、橋本　大輝、平野　謙太、
牧　哲也、松本　麻子、山田　昌子　　※ 五十音順、敬称略

４　議　事
（１）開会
（２）保健福祉局健康医療部長挨拶
（３）構成員の紹介（山田構成員）
（４）報告・情報共有
・ 備えの総点検や災害時個別支援計画作成に関する報告等
（事務局、支援者、当事者家族）
（５）意見交換
・ 日頃からの備えを含めた災害時支援のあり方について

５　議事概要（報告・情報共有及び意見交換）
○　報告・情報共有
・ 事務局より、前回の意見交換会の振り返り、非常用電源の確保に関する考え方や方向性、災害時個別支援計画作成の現状や課題等についての説明・報告が行われた。
・ 在宅人工呼吸器使用患者の支援者（ヘルパー）より、実際に避難訓練を行った結果と、非常用電源の活用の実証結果や災害時支援の課題等について説明が行われた。
・ 当事者（医療的ケア児）の家族より、災害時個別支援計画の作成や災害時支援について、計画作成の現状や問題点、今後の課題等について説明が行われた。

○　意見交換
事務局、支援者、当事者家族からの報告・説明後、意見交換を実施。構成員からの主な意見は以下のとおり。
・ 蓄電池が使用可能な間にどのように次の支援へ繋いでいくかということが重要である。
・ 災害時の医療機関での受入れについて、全ての病院に一斉にお願いするのは難しいが、個々のケースで調整をしていけば全くできないことはないと思う。また、個室があるような施設が近くにあれば電源を借りたり、透析をしている方のネットワークなどと協定を

結んで共同で避難場所を確保するなどの方法もあるかもしれない。

- 避難時のチームワークについて、手伝ってくれている支援者を責めたりすることのないよう、お互いに尊重し合うことが重要である。
- 災害時に自宅で避難生活を送るか別の場所に避難するかは、それぞれメリットやデメリットがあると思うので、それを事前に整理しておくことが個別支援計画を作成し生かしていく上で大事である。
- 自宅で確保している電源の限界を迎えた後に避難する場所についても、ある程度把握していく必要がある。
- 災害時における機器のメンテナンス体制について、フィリップスでは、地震の場合は震度５弱から全ての利用者様に対して連絡をしており、今後、ＳＭＳショートメッセージを活用して通知の送付できるようシステム構築を進めている。また、災害時には近隣の営業所と連携しながら対応していく。
- 福祉避難所について、必要な時に避難者を受け入れた施設に対して報酬を払うなど、必要な人と福祉避難所のマッチングが進めやすくなる仕組みが確立されると、災害時個別支援計画の作成や活用がしやすくなる。
- 災害時個別支援計画を効率的・効果的に進めていくことについて、新規の作成をどうするかということと併せて、作成後の更新をどうしていくかというところも一緒に考えていく必要がある。
- 災害時支援や災害時個別支援計画の作成について、医療的ケア児コーディネーター養成研修の修了者の活用方法や、修了者への災害時の協力要請の体制なども考えていく必要がある。
- 災害はいつ起こるか分からない。災害時個別支援計画の情報共有について、例えば、災害が発生して県外移送が必要な状態になった場合等に、その時になって関係機関等と情報を共有するのではなく、随時情報が活かされる状況に早くなってほしい。
- 災害時個別支援計画の作成に自治体が関わり、まず動いて作ってみるという今回の取組は良かったと思う。
- 災害時個別支援計画の作成にあたり、近所の方がどのように関わっているのか、また、どこまで関わることができるのか関心を持っている。
- 優れた医療者がいたとしても意思疎通が図れなければその力を使うことができず、その意思疎通の通訳をしてくれるヘルパーの付き添いは、どこに避難するにも絶対必要である。
- 病院へのヘルパーの付き添いは制度上では認められているが、感染症の問題もあり認めている病院はまだまだ少ないため、これを機会に認知していただきたい。
- 各々の病院に付き添いを認めるよう指導することは難しいため、認められている権利として個別に病院等と話し合いをすることになると思う。

・ 当時者の危機的状況を回避するためには、災害等の非常事態の際の消防の対応や災害時の病院の受入れ、県外移送の想定などを体制として整えておく必要があり、その道筋を作ってほしい。

・ 災害時に市医師会が救急の本部を立ち上げて関係団体と協働し、困っているところにどのような支援をするかということの訓練を、市医師会主導で定期的に行っており、実際の災害時にもこの取組を実行できたらよいと感じる。

６　次回の開催予定

令和７年度第３回プロジェクトチーム意見交換会については、令和８年２月または３月に開催することとし、災害時個別支援計画の作成に関する令和７年度の取組のまとめの報告、ゲストによる共助の取組に関する説明、日頃からの備えを含めた災害時支援のあり方に関する意見交換を行う予定。